



ほほえみだより

笑顔いっぱい 生き生き
今日も来てよかった治田東の子ども

栗東市立治田東小学校

第11号

令和6年1月30日

「大谷グローブ」が届きました！

1月18日、子どもたちが待ちに待っていた「大谷グローブ」が本校に届き、翌日の朝に「グローブ贈呈式」を行いました。贈呈式では、6年生の3名が校長室で代表してグローブを受け取る様子を、各学級にMeetで配信し、6年生が、「大谷選手のような夢を叶えられる人になりたい」「夢に向かって努力していきたい」などの決意を語ってくれました。その後、全校のみんなが見られるように1階の展示スペースに置いたところ、休み時間にガラス越しにグローブをきらきらした眼差しで見ている多くの子どもたちの姿を見かけました。中には、「もう1回グローブを見て帰ろう」と下校前に見に来ている子にも出会って、寄贈品へのうれしい気持ちを一緒に味わいました。



今をときめく大谷翔平選手が、全国の約20,000の小学校等にグローブを贈るという、前代未聞の本プログラムは、世間の注目を集め、報道等により各校のアイデア競争のようになっていますが、本校では、いたずらにそうした風潮に流されずに、せっかくの寄贈品を有効に活用するための独自の方法を考えています。

まずは、「子どもたちが実際に手にはめたり触れたりする」機会づくりを最優先して、グローブを1月中に各学級に順に回していきます。すでに子どもたちから「大谷グローブを触った」「キャッチボールをしてみたい」などの声を多く聞き、うれしく思っています。そして、その後は学年ごとに曜日を決めて貸し出し、（今は安全面から禁止している）キャッチボールができるスペースを運動場に設置することを考えています。また、国語の授業の中で、その思いを文章にしてみる、道徳で自分の夢を考えてみるなど、学習にも活用することを考えています。子どもたちのわくわくした気分を保護者の方にも感じていただけるよう、2月7日（水）の学習参観日には、手にとっていただけるように準備していますので、お手にして、ぜひお子さんと喜びを共有していただければ幸いです。

なお、この「大谷グローブ」には、大谷翔平選手からの以下のメッセージが添えられていました。

私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。グローブを寄贈することで、子どもたちが野球というスポーツに触れ、興味を持つきっかけになってほしいと願っています。

今回の「大谷グローブ」が、子どもたち一人ひとりにとって、かけがえのない原体験となり、野球に限らず、夢を抱いて努力を重ね、勇気をもって自分の道を進み、充実した人生を送るきっかけになることを願っています。

わかばっこの
つぶやき



能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ心からお見舞いを申し上げます。厳しい寒さの中で避難生活を余儀なくされている方々の心中をお察しすると胸が痛みます。被災地域の皆さんの安全と、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。1月17日の避難訓練後には、29年前の阪神淡路大震災の話にも触れました。今回の避難訓練は不審者侵入対応でしたが、自然災害の恐ろしさを痛感して、日頃の訓練・危機意識の大事さを学んでくれたことと思います。

※子どもたちの学校生活の様子からつぶやきます。